

結納の際のふろしきの包み方

結納の際は、平包みといわれる結び目を残さない包み方で広蓋や結納函を包みます。これは、結び目を「ほどく」ということを避け、いつまでも解けることのないおつき合いを……と願うカタチともいえるでしょう。一般的には、最も礼儀正しい上品な包み方で結納以外では贈答品を持参する際にこの包み方で包みます。

※下記の例は広蓋の包み方ですが、結納函を包む場合は⑤より始めてください。

